

どこであろうか分からない ～交通事故～

47期生

I テーマ設定の理由

ニュースなどで、いつも事故が絶えないし、1日に死者か傷者が1人はでているからどんな事故が多いか、どんな所で事故が多いか調べて、いつでも安心していられるようにしようと思ったから。そして、他の人たちにも知ってもらい、事故を少しでも減らしていこうと思い設定した。

II 研究方法

- (1) 文献調査 図書館に行き、事故のうつり変わりなどの本をかりて、調べる。
- (2) 警察の人に質問したり、資料をもらったりする。

III 研究内容

1 種類

『事故』といっても、いろいろあり、例えば

- ① 交通事故
- ② 火事
- ③ 家の中の事故

交通事故とは、交通機関の衝突などによる事故という意味です。

では、事故とはなんでしょう。

事故とは、思いがけない悪い出来事という意味です。

火事とは、建物などが燃えるという意味です。でも、山火事となると、山が燃えるということです。

家の中の事故とは、やけど、包丁による事故などの事です。

この中で、私の調べているのは、交通事故です。

2 交通事故

(1) 概況

この表では、平成2年と平成3年のことが書かれています。

発生件数では、平成2年から平成3年にかけて、3,064件増えている。けれど、死者数は、21人も減っている。

私は、年々増えつづけているのかなと思っていたが、やっぱり、減る

▼表1 事故の発生件数及び死傷者数

年 件-死-傷	年		増 減	
	平成2年	平成3年	数	率
発生件数	46,156	49,220	3,064	6.6
死 者	571	550	-21	-3.7
傷 者	53,364	61,504	3,140	5.4
重傷者	5,140	5,390	250	4.9
軽傷者	53,224	56,114	2,890	5.4

(大阪 1991年)

こともあるんだなと思った。

表2を見てみると、自動二輪事故では、前年度よりも、発生件数、死者、傷者ともに減っている。

この中で、自転車の事故が一番多い。私は自転車の事故も、歩行者の事故も、交差点に多いと思う。

(2) 形状別による事故の件数、死者数

図1を見てみると、私の予想通り交差点が件数、死者ともに一番多く、全事故の6割強、死亡事故の5割強をしめている。

踏切の事故では、件数は少ないけれど、死者数で少し増えているので踏切の横断には注意し、「カンカン」という音がなると、もうわたらないようにしたらいいと思います。

交差点では、左右を見ないでというのが圧倒的に多く、次に、信号無視となっています。どちらも、自分たちで心がけたらなおせることばかりなので、いつも注意しておいてください！

一応例をあげてみると、図2のようなかたちになる。

まず、車は、前にだれもいないので、スピードをあげる。それを知らずに自転車にのっている人はそのままつっこむ。

すると、飛びだしてきた自転車も、自動車も、いきなりには止まれないので、そのままぶつかってしまう。自動車は、はやくはしっているし、自転車に乗っているので、死亡率は90%ぐらいで、重傷率100%だと思う。

これが左右を確かめない事故のつながりである。

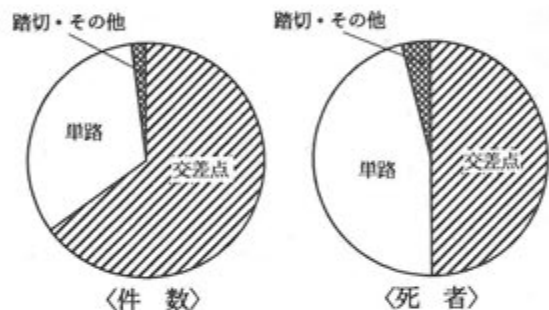
この他にも、交差点での事故はいろいろある。例えば、私が実際体験したことで、その時の状態は、図3の状態でした。

私はその時、自転車に乗っていました。Aの横断歩道が青になったので、私は気

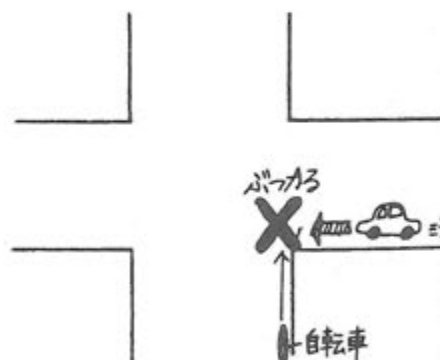
▼表2 当事者関連事故の発生状況

件・死・傷 関連事故	件数	死者	傷者	
				重傷者
歩行者事故	5,819	165	5,992	1,102
前年比較	362	12	404	60
自転車事故	12,027	55	12,573	1,149
前年比較	896	-11	953	93
原付事故	11,316	63	12,073	1,496
前年比較	763	4	788	132
自動二輪事故	5,420	102	6,068	1,094
前年比較	-82	-28	-139	40

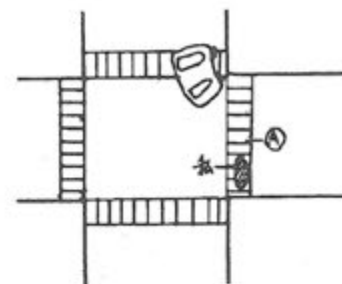
(大阪 1991年)



▲図1 形状別による事故、死者数



▲図2 交差点での事故①



▲図3 交差点での事故②

ままにわたっていたら、私から見て左の方から自動車が左折しようとしていました。私は、車の人とまわってくれてと思ってそのまま走り進んでいきました。でも、運転手さんは私とまわってくれてと思っていて、進みました。だから私の自転車と車は接触して、本当にトンッとぐらいしかあたらなかったんですが、カゴが見事にグニャリと曲がり、私にはけがは一つもありませんでした。でも、私はその時本当に事故ってこわいなと初めて実感しました。

(3) 状態別

私は、あの人はとまわってくるといふふうに思って事故にあいそうになっただけで、実際どういう時に事故にあうか見てみようと思います。

表3の死者数を見てみると、幼児では、歩行中しかなく、4人です。傷者では、やっぱり歩行中でした。小学生では、死者数は歩行中と自転車乗車中とがいっしょで1人でした。でも傷者数では自転車乗車中が多かったです。中学生では死者数は自転車乗車中とその他とがいっしょで1人でした。でも小学生といっしょで傷者数は自転車乗車中が多いです。幼児では、自転車に乗れないので、そんなに多くないけれど、そのかわり両親の車にはたくさん乗るので多いと思う。小学生では、まだ子供だし、よく自転車には乗ると思うから、死者では1人だけど、傷者ではとても多い。中学生では、もう大人になってきたので、いろいろ安全面には注意しているから、幼児や小学生よりは少ない。半年で、8人も死亡しているのは、とても残念だと思う。それに傷者では2,318人と、とても多く附中では生徒は480人だけど、これより5倍ぐらい多いのでわかると思う。

▼表3 状態別

状態 区分	歩行中		自転車乗車中 (含原付)		その他		計	
	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者
幼児	4	397	0	163	0	187	4	747
小学生	1	465	1	556	0	107	2	1128
中学生	0	69	1	294	1	80	2	443
計	5	931	2	1013	1	374	8	2318

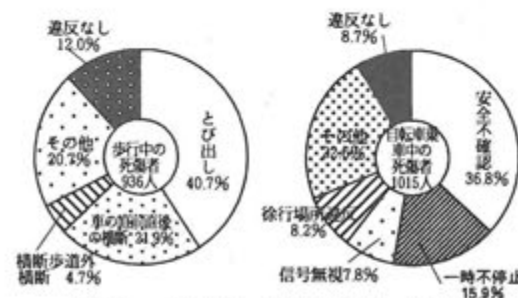
注：その他は、自動車等の同乗中である。

(大阪 1993年1月～6月)

(4) 原因別

では次に、どうしてこういう事故につながったか調べてみた。

歩行中は、「とび出し」と「車の直前直後の横断」等の「危険な事故」が最も多く、歩行中の死傷者の約6割をしめている。自転車乗車中では、「安全不確認」や「一時不停止」等の基本的なルール違反が、自転車乗車中の死傷者の約6割をしめている。とび出しなどは、私もやったことがあるので注意しよう！

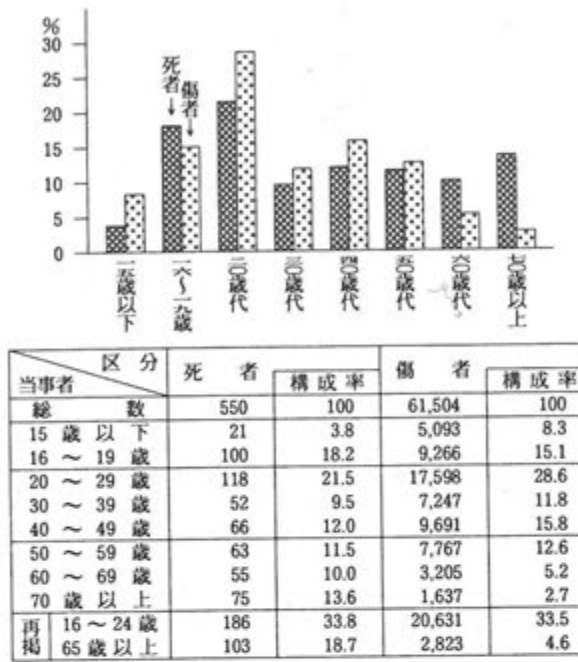


▲図4 (大阪 1993年1月～6月)

(5) 年令別

やっぱりいつ事故にあいやすいか知りたいと思うから調べた。この表では、私たち中学生のことはそんなに詳しく書いていないが、事故にあいやすいのは20歳代となっている。きっとこれは、免許がとれて、うれしくてついスピードを出しすぎてとかいうことがあると思う。16～19歳は死者が多い。70歳以上など、その辺になるともう体が弱り始めているからちょっとした事でも大事故につながると思う。私たち中学生は、こうして比較してみると、けっこう少ないんだなと思った。でも、少ないといっても5,093人もいるんで、そんなに安心ばかりしてられない。

▼表4 年令別 (大阪 1991年)

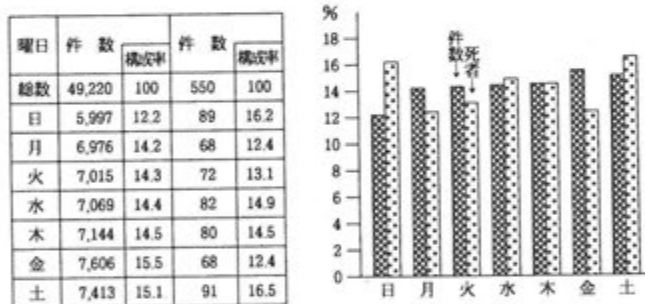


(6) 曜日別

曜日別では、件数は金曜日が多くその次に土曜日がやや多い。死者は土曜日、日曜日が多い。この表は1年間を通しての数だから、1週間みて日曜日は、「 $5997 \div 12 \div 4 = 124.9375$ 」で、約125件事故が発生していて、死者は「 $8 \div 12 \div 4 = 1.8541666$ 」で、約1.9人死者がでていたことがわかった。

こうしてみると、とても多く感じられる。私は最初、日曜日は事故は少ないと思っていたけれど、けっこう多かったのが、父に聞くと日曜日は道がすいているからスピードをだしてしまいそのまま事故をしてしまう。反対に、月曜日などは事故は多いと思っていたけれど、よく考えると道がこんで、あんまりスピードを出せないだから人と接触しても、傷とかしかできない。つまり日曜日など休みの日は、大事故になり死者が多い。でも月曜日などの平日は、小さい事故ですむので死者はでないけれど傷者が多くなる。私達学生は、休日は日曜や土曜日しかないで、平日は事故にはあいにくいけれど、休日は少ししかないからうかれていますので事故にあ

▼表5 曜日別 (大阪 1991年)



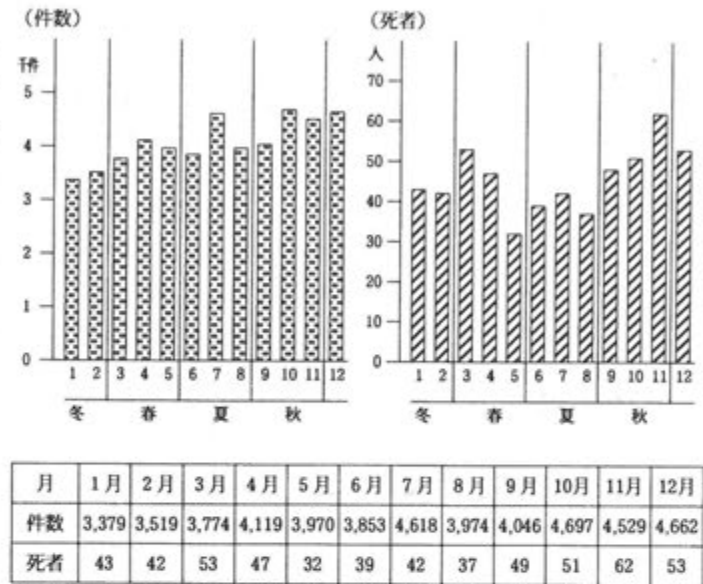
注) これは、一年間を通しての数です。

やすい。

(7) 月別

一応分かりやすくするために四季別に分けてみた。すると、件数は夏と秋が同じくらい多く、死者でみると、夏は少なく、秋は多くなっている。私は夏休みがある夏は、件数、死者ともに多いと思っていたけれど、休みのない秋が一番多く、死者では夏が一番少ない。これはきっと、夏休みはこの家族でも旅行に行くから、道などがこむ。つまり、そんな大きな事故にはつながらないけれど、秋は別に休みもないのでそんなにうかれなく、道はいうほどこまないとと思うから、スピードをあげて、大事故になるのかなと思いました。

▼表6 月別 (大阪 1991年)



(8) 時間別発生状況

件数では、午前4時が一番少なく、午前8時が一番多く。死者数では、午前7時が一番少なく、午前0時が一番多い。ここで分かることは件数が多い時間帯は交通量が多く、件数が少なかったら交通量は少ない。でも、死者数が多い時は交通量は少なく、死者数が少なかった時は交通量は多い。やっぱりここにも、交通量が多いと道がこむからスピードをだせない=大事故にはならないということが成り立っている。だから私達学生などはいつもラッシュなどの時間帯なので、そんなに事故にあわないと思う。午前0時からの死者数は減っていて、午前5時ぐらいになるとまた増えてくる。交通量はやっぱり午前0時～午前5時は少ない。

▼表7 時間別発生状況

時間帯	件 数	構 成 率	死 者	構 成 率	交通量 (%) (1991年9月調査)
総 数	49,220	100	550	100	100
午前6時	858	1.7	20	3.6	3.8
7時	2,562	5.2	8	1.5	6.0
8時	4,161	8.5	21	3.8	5.8
9時	2,442	5.0	17	3.1	5.4
10時	2,253	4.6	13	2.4	5.5
11時	2,523	5.1	14	2.5	5.5
午後0時	2,220	4.5	15	2.7	5.1
1時	2,266	4.6	15	2.7	5.8
2時	2,563	5.2	14	2.5	5.6
3時	2,832	5.8	19	3.5	5.7
4時	3,090	6.3	18	3.3	6.0
5時	3,813	7.7	19	3.5	6.4
昼 間 計	31,583	64.2	193	35.1	66.6
午後6時	3,418	6.9	27	4.9	5.8
7時	2,660	5.4	24	4.4	5.3
8時	2,042	4.1	26	4.7	4.5
9時	1,910	3.9	23	4.2	3.6
10時	1,745	3.5	28	5.1	3.2
11時	1,648	3.3	44	8.0	2.6
午前0時	1,221	2.5	53	9.6	2.1
1時	979	2.0	43	7.8	1.6
2時	724	1.5	28	5.1	1.2
3時	469	1.0	18	3.3	1.0
4時	376	0.8	18	3.3	1.0
5時	445	0.9	25	4.5	1.6
夜 間 計	17,637	35.8	357	64.9	33.5

注: 午前6時とは、午前6時から午前7時になるまでの間を示す。(以下、同じ。)

3 スローガン

(1) どんなもの?

私も最初はしらなかったんだけど、警察官に聞いて知りました。スローガンとは、よく歩道橋についている俳句みたいなもので

す。例えば、

・とびだすな ぼくらのいのちは 地球のみらい

というものです。

これで、きっとみんなわかったと思います。他にも、

・カチッとね シートベルトと 安全確認

・その駐車 あなたはよくても みんなが困る

といろいろあります。これは、今何コぐらい大阪にあるんですか？と聞くと、ありすぎてわからないらしいです。なぜかという、このスローガンは、私達一般の人たちが考えてそれを警察の人たちが選ぶそうです。だから1年に5個か6個ぐらいできるといっていました。もしみなさんもスローガンが考えついたら警察に行ってみたらどうです。もしかしたらあなたの考えたものが歩道橋についているかもしれませんよ。

IV 結論（考察）

事故というのは、おそろしく、死ぬということもある。まず、交通事故は、交差点で多い。これは、左右を見ずにということが原因になっている。そして交通事故は、交通量の少ない時に多い。これは道がすいているので、スピードを出してしまう。このときに事故にあったら、70%ぐらいは死亡する。だが、交通量の多い時は、スピードが出ないので、事故にあっても、接触ぐらいで、傷ぐらいですむ。だから、あんまり夜おそくには帰ってこないこと、交差点では左右を見て、車がきているか確かめることを重点におくと、事故にはあわない。

V 総括（まとめ）

私は最初こんな研究本当にできるかなと心配でした。だけど、警察の人たちも親切に教えてくれたので、冊子代表に選ばれ、とてもうれしかったです。私が調べたかった所とずれていた所もあったけれど、本当にいい研究ができたなと思いました。

・参考文献

・大阪府警察本部（1991）「統計からみた大阪の事件、事故 平成3年」

・金田一春彦 「小学国語辞典」学研